



《 卷 頭 言 》

教育には「太陽」が必要だ
「誇り」と「組織力」 その2北会津小学校長会会長 山本 靖
(会津若松市立謹教小学校)

過日、教育調査研究所発行「教育展望」5月号に目を通していたところ、その巻頭言で、国立教育行政研究所長の常磐豊氏が、10年ほど前の「小学校時報」から、当時の全連小会長池田芳和氏の「教育にはやっぱり太陽が必要だ」という言葉を引用しておられました。学校の役割や責任の増大は教師の余裕を奪い、技術革新への対応、評価と説明責任など、自己変革やイノベーションが強調される時代だからこそ、学校には、「太陽」すなわち、人と人との温かいつながりが必要であるというものです。

私は、本広報の前号で、151年目の「希望」は「誇り」と「組織力」と題した巻頭言を書かせていただきました。教育現場の難局を乗り切るための「誇り」と「組織力」ですが、それが悲愴的な覚悟に終始しないためには、「太陽」の温かさが不可欠とします。そんな思いにさせてくれる知見を2つ紹介します。

1 「失敗して学ぶ」か「学ぶことに失敗する」か。＜心理的安全性＞

組織行動学の「効率的なチームワークは、ゴールが明確で優秀な人材のいる環境下で生まれる」という学説を受け、ハーバード大学のエドモンドが「効率的なチームワークを発揮している医療チームはミスが少なくなる」という仮説を立ててリサーチした結果、その条件を満たしている医療チームは、予測に反して、他のチームよりミスが多いことが判明しました。そこで、さらに詳細に観察を進めたところ、チームワークの良いチームは、「より多くのミスを起こすのでなく、より多くのミスを報告していた」ことが判明しました。

すなわち、条件を満たさないチームは、実際にはたくさんのミスがあっても、その事実を隠していたので見えなかったに過ぎなかったということです。「失敗して学ぶ」か「学ぶこと自体に失敗するか」ということです。そして、うまく統率されたチームは、「心理的安全性（失敗しても笑われたり罰せられたりしない）」が確保されていることを発見します。学校も、成功だけが求められ、ネガティブな「報告・連絡・相談」が隠されることになれば、組織はダメになるということです。

2 「適者生存」は「弱肉強食」ではない。＜同情する脳＞

ダーウィンの人類進化の概念である「適者生存」は、競争に打ち勝つ「弱肉強食」と誤って解釈しがちですが、彼は、共感や同情こそが人間が持っている一番有能な素質だと考えていました。彼の仮説は、「同情できる人が一番多くいる社会が最も繁栄し、多くの子孫を残すだろう」であり、弱い赤ちゃんを守る、協同で子どもの世話をする、妊婦に優しい仕組みを整える社会や人間が、現在、猛獣達よりも繁栄しています。そして、現代の医学で、人間の脳には、他者を観察することで、自分の脳内であたかも同じことが行われているように働くミラーニューロンの存在が確認されています。ダーウィンの予言どおり、同情は、すでに人間の脳神経に組み込まれており、人間の本質だということです。組織として、「結果を出す」「数値化する」「可視化する」「P-D-C-Aのサイクルを回す」は全て不可欠ですが、それらの運用が目指しているものは「弱肉強食」ではなく、「適者生存」であり、そこに機能させなければならないということだと思えます。

このように考えると、「誇り」や「組織力」に血の通った温かさが感じられます。「誇り」や「組織力」を、難局に立ち向かう「太陽」にしていきたいと思います。

各部活動の計画

《 行財政部 》

荒館小学校 吉田ひとみ

今年度もご多忙中、教育行財政に関する調査への御協力、ありがとうございました。

現在、新採用教員の多数配置、講師不足、校務の多忙化等、学校現場には様々な問題が山積しております。今年度も教育諸条件の整備充実、教職員の待遇改善と福利厚生の上昇、当面する重要課題の解決を目指す県行財政部の活動方針に従い、さらなる教育行政の改善のために取り組んでいきます。北会津支会内の調査研究を行うと共に、皆様の声を届けられるように、部員一同、真摯に取り組んで参りますので、今後ともご理解と御協力をよろしくお願いいたします。

◎吉田ひとみ（荒館小）○金成和彦（猪苗代小）
・篠崎俊樹（一箕小）・小林義弘（松長小）
・遠藤信恵（永和小）・長澤健治（神指小）

《 生徒指導部 》

大戸小学校 二瓶 悦子

ご多忙の中、「生徒指導上の諸問題」に関する調査へのご協力をいただき、感謝いたします。調査結果につきましては、「生徒指導部だより」として皆様にお知らせし、課題の共有化を図りたいと思います

昨年度の結果を見ると、H 29 年度に比べ、H 30 年度のいじめの件数が増加しました。今後も早期発見・早期対応に努め、日常的にいじめが起きにくい集団づくりなどの未然防止に組織的に取り組んでいく必要があると考えます。

本年度は、以下の5名の部員で活動します。よろしくお願いいたします。

◎二瓶悦子（大戸小）○佐藤俊一（小金井小）
・兼子栄一（川南小）・山口 浩（城北小）
・永島慶和（翁島小）

《 研究部 》

東山小学校 津田 宗人

7月22日（月）・23日（火）の2日間、県研究協議会いわき大会が開催されます。1班は第4分科会で発表を行います。2班と3班は希望支会ですが、これまでの研究をまとめた資料を持参して各分科会に参加します。

8月には支会内での発表、11月には研究集録原稿執筆があります。また、令和2・3年度研究の分科会も今年度中に決定します。よろしくお願いいたします。

◎津田宗人（東山小）
○横山譲治（城南小）○佐藤 明（千里小）
・佐藤裕哉（日新小）・佐藤秀一（緑小）
・原田知幸（吾妻小）

《 広報部 》

河東学園小学校 渡部 仁一

今回の145号を含め、年3回の発行を予定しています。昨年度末にご退職された校長先生方が多く、例年よりもページ数が増えます。玉稿ですので、読み応えがあるものと思います。

情報交換や研修を深めるのに役立てていただければと考えています。

会員の皆様に、原稿執筆をご依頼いたします。ご多用とは思いますが、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

◎渡部仁一（河学小）○野原光弘（磐一小）
・古川 徹（湊小） ・佐久間仁（磐二小）
・吉田英俊（長瀬小）